東京都立中央ろう学校　学校便り　２月号　　発行　　令和７年１月３１日

Tokyo Metropolitan　Chuo School for The Deaf

中央ウェイ　　２月号

３１１被災地視察研修から

副校長　田村　香

夏のことになりますが、全国教員対象の「３１１被災地視察研修」に参加してきました。この研修は、年に２－３回「公益財団法人３．１１メモリアルネットワーク」が主催しています。毎年、学校に案内が来るのですが、タイミングが合わなかったり、応募者多数のために落選したりして、やっと今年実現しました。研修は３泊４日で岩手県と宮城県の学校被災の現場を中心に広域を巡り、被災当時の生徒や教員とともに現場で語り合い、教訓を共有するのが特徴です。参加者は、全国の教職員３０名程度で（マイクロバス１台)、北から南まで学校で、校種もバラバラ（今回特別支援学校は私を含め２人でした。)、全ての職層（校長先生も数名いました）でした。回によっては教育行政の方や企画室の方が参加することもあるそうです。学校に携わる様々な立場の人が学校被災の現場を見、考えたことを、全国に広げていくという目的の研修です。

研修の一例を紹介します。

釜石市東中学校生徒と鵜住区小学生が率先して高台避難し、難を逃れた現場を視察しました。実際に児童・生徒が避難したルートを歩きました。地域の避難場所となっていた防災センターに避難した約160人は津波の犠牲になってしまったそうです。この地域の防災教育として「津波てんでんこ」(津波が来たら、いち早く各自てんでんばらばらに高台へ逃げろという古くからの言い伝え）があるそうです。語り部の方は当時中学２年生で、小学生と手を取り、あらかじめ決められていた高台の避難場所からさらに上に逃げ、命を守ることができた、と話してくれました。

元石巻西高校の校長先生からは避難先になった学校の実情についてご講話いただきました。在籍している生徒の安全確認をしている中、地域からはどんどん学校へ避難してくる人がいる状況のもとで避難所運営を行った話をしていただきました。また参加者でワークショップを行い、3泊4日の研修を振り返り、学校に戻って行っていかなくてはならない防災教育について意見を出し合いました。

この研修では､様々な角度から311東日本大震災の被災状況について理解することができたとともに、復興についての地域、自治体の考え方の相違、なども知ることができました。研修から戻ってきた私がまずしたことは、自宅から学校まで自転車で来ることでした。(本当は徒歩の方がいいのでしょうが）自転車で来ることで、起伏や、道幅、交通量、公園、学校の位置、などが把握でき、本校の避難に当たって今後の参考になると思いました。

ご案内のとおり、今まで行っていた宿泊防災訓練に替わって、今後はより地域と連携した防災訓練を行っていくことになると思います。今回の研修を参考にして、学校の実態に即して迅速に避難できるような訓練を、地域の方と一緒に考えていきたいと思っています。